

1 2 月

祈り

世界平和

コロナ終息

学園祭も終わり、早くも2学期終了。読書教室では先月から映像鑑賞をプラスして授業を進めている。新しい試みが好評だ。

とんび

重松 清

角川文庫



あらすじ

妻を突然の事故で亡くした主人公ヤスが、男手ひとつで息子のアキラを育てる奮闘記。まわりの優しい人達に恵まれて4歳だったアキラは立派に成長する。やがてヤスさんが孫を見るまでの人生を綴った「とんびが鷹を生んだ」心温まる物語。

読后感想

- 子供が成長し、自分から遠ざかって行くような寂しさが良く表現されていて胸が痛んだ。
- 「お母ちゃんがおらんでも、背中が寒い時は皆で温めてやる。それを忘れるな」「子供の悲しさ、寂しさを飲み込む海になれ」と励ます和尚の言葉が心にひびいた。
- 父子家庭の大変さがにじみ出ている。
- 「僕にとっての本当に大切な真実は、父と過ごした日々にあった」とアキラが言った言葉が印象に残った。
- 義理人情に篤いやスの男気は、あの寅さんの心情にも通じると思った。
- 心を癒しホッと安堵感を与えてくれる結末で良かった。
- 人を感動させる文脈作りに優れた作家だと思う。
- 武骨で口下手、一本気。それでいて憎めない。そんな主人公を周りはつい世話を焼きたくなる。DVD を観てから本を読んだので尚一層、登場人物それぞれの心情がより深く理解できた。読書も眼、耳心で読むとより楽しい。

